

2026年度 愛知学泉大学シラバス

| シラバス番号 | 科目名 | 担当者名 | 実務経験のある教員による授業科目 | 基礎・専門別 | 単位数 | 選択・必修別 | 開講年次・時期 |
|--|------------------------|--|------------------|--|-----|--------|---------|
| 330331070 | 社会的養護Ⅱ Social CareⅡ | 阿尾 匡晃 | | | 1 | 選択 | 3前期 |
| 科目の概要 | | | | | | | |
| <p>「社会的養護Ⅰ」で学修した基礎知識を踏まえて、事例を中心としながら、社会的養護の子ども・家族が置かれている現状や適切な支援方法について学ぶ(DP3・4)。子どもや家族の立場に立って本質的なニーズを理解し、具体的な支援方法を検討する力を身につける(DP4・5)。そのためには、活発な意見交換を通して、多様な考えや価値観に触れ、事例を多面的に捉えることが求められる(DP5)。多職種協働(チーム支援)によって支援することの意義や必要なスキルについて理解を深める科目である(DP1)。</p> | | | | | | | |
| 学修内容 | | | | 到達目標 | | | |
| ① 社会的養護の実施体系(施設養護・里親制度の特性及び実際)について学修する ② 社会的養護における支援の展開について学修する ③ 支援計画と事例検討(自立支援計画の作成、支援別事例検討)について学修する ④ 社会的養護にかかわる専門的技術について学修する ⑤ 社会的養護の課題と展望について学修する | | | | ① 社会的養護の実施体制について理解し、各施設の概要や役割について説明することができる。 ② 社会的養護における支援の展開について理解し、アドミッション～アフターケアにおける支援内容を説明することができる。 ③ 事例についてアセスメントを行い、支援上の課題、支援目標、支援内容、方法を具体的に考え、子ども・家族への自立支援計画を立案することができる。 ④ 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について理解し具体的事例に関する支援方法を発表することができる。 ⑤ 社会的養護の現状と課題から、今後の日本の実態に即した社会的養護のあり方について自分の考えを述べるができる。 | | | |
| 学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素 | | 学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例 | | | | | |
| 前に踏み出す力 | 主体性 | 社会的養護の制度や実施体系、児童の人権擁護や自立支援について興味を持ち、新聞記事やニュース等から最新の情報を調べることができる。 | | | | | |
| | 働きかけ力 | グループディスカッションにおいて、活発な意見交換ができるように周囲に働きかけることができる。 | | | | | |
| | 実行力 | 講義終了後、その日のうちに必ず復習を実施することができる。 | | | | | |
| 考え抜く力 | 課題発見力 | 事例について、バックグラウンドや社会的な背景を踏まえて、ソーシャルワークの視点に立って課題を導き出すことができる。 | | | | | |
| | 計画力 | 計画的に学修をすすめることができる。 | | | | | |
| | 創造力 | 事例について、バックグラウンドや社会的な背景を踏まえて、ソーシャルワークの視点に立って課題を導き出すことができる。 | | | | | |
| チームで働く力 | 発信力 | 社会的養護における課題について自分の意見をまとめ、ディスカッションできる。 | | | | | |
| | 傾聴力 | グループディスカッションにおいて、他者の意見をひろく受け入れることができる。 | | | | | |
| | 柔軟性 | グループディスカッションにおいて、他者の意見をひろく受け入れ、自分の考えを膨らませることができる。 | | | | | |
| | 状況把握力 | グループディスカッションにおいて活発な意見交換ができるように、自分の役割に気づくことができる。 | | | | | |
| | 規律性 | 規律を守り、課題を期限までに提出できる。 | | | | | |
| | ストレスコントロール力 | 自分の感じ方や考え方の傾向を把握し、自己覚知を深めることができる。 | | | | | |
| テキスト及び参考文献 | | | | | | | |
| 「社会的養護Ⅱ」喜多一憲監修、堀場純矢編集、みらい | | | | | | | |
| 他科目との関連、資格との関連 | | | | | | | |
| 他科目との関連:「社会的養護Ⅱ」は学科専門科目「保育の内容・方法に関する科目」として設定されており、「社会的養護Ⅰ」で獲得した知識・技術を活用する。その後に履修する「地域と子育て支援」の基礎となる科目である。 資格との関連:保育士 | | | | | | | |
| 学修上の助言 | | | | 受講生とのルール | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 講義中は、講義内容に関係のない私語は慎み、積極的に参加すること 児童福祉関連の文献、新聞記事、ニュース等で情報収集を心掛けること 「施設実習」と関連付けて事前・事後学習として意識して積極的に学ぶこと | | | | <ul style="list-style-type: none"> 世の中で起こっている様々な事件の中で、子どもに関連する出来事に注目する(テレビ、新聞等のニュースに関心を持って、毎日見聞きすると良い) 一人ひとりが自分事としてとらえ、積極的なグループワーク、発表準備を行うこと | | | |

【評価方法】

| 評価対象 | 評価方法 | 評価の割合 | 到達目標 | 各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント | | |
|-----------------------|--------------|-------|------|---|---|---|
| 学修成果 | 学期末試験 | 0 | ① | | | |
| | | | ② | | | |
| | | | ③ | | | |
| | | | ④ | | | |
| | | | ⑤ | | | |
| | 平常評価 | 小テスト | 10 | ① | ✓ | ・Googleclassroomにおけるリアクションペーパー及び確認テスト ①社会的養護の実施体制について理解し、各施設の概要や役割について説明することができるか ②社会的養護における支援の展開について理解し、アドミッション～アフターケアにおける支援内容を説明することができるか ③事例についてアセスメントを行い、支援上の課題、支援目標、支援内容、方法を具体的に考え、子ども・家族への自立支援計画を立案することができるか ④社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について理解し具体的事例に関する支援方法を発表することができるか ⑤社会的養護の現状と課題から、今後の日本の実態に即した社会的養護のあり方について自分の考えを述べるができるか 知識の獲得：社会的養護の実施体系や各施設の概要、支援の展開についての知識（50%） 知識の活用：支援の展開について理解し、各段階におけるポイントを説明できる（30%） 課題解決：事例についてアセスメントを行い、支援上の課題、支援目標、支援内容、方法を具体的に考えることができる（20%） |
| | | | | ② | ✓ | |
| | | | | ③ | ✓ | |
| | | | | ④ | ✓ | |
| | | | | ⑤ | ✓ | |
| | | レポート | 50 | ① | | 社会的養護の実態を理解し、具体的な自立支援計画立案や個人に応じた支援ができるかについて評価する。 S:個人個人に応じた自立支援計画を立案し具体的な支援に繋げることができる。 A:個人個人に応じた自立支援計画を立案し自立支援について述べるができる。 B:自立支援計画を立案し、自立支援について理解することができる。 C:自立支援計画や自立支援について理解することができる。 F:Cのレベルに達していない 知識の獲得（施設養護及び他の社会的養護の実態について理解し発表する）:50% 知識の活用（個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について理解し自立支援計画を立案する）:30% 課題解決（社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深め課題を考察し解決法や対処法を提案する）:20% |
| | | | | ② | | |
| | | | | ③ | | |
| | | | | ④ | | |
| | | | | ⑤ | | |
| 成果発表（プレゼンテーション・作品制作等） | 30 | ① | ✓ | 施設養護における支援についてグループごとに発表を行う。グループワーク後に自身の積極的なグループ活動の参加や発表等について自己評価を行い、グループワークの気づきを確認する。 知識の獲得（施設養護及び他の社会的養護の実態について理解し発表する）:50% 知識の活用（社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について理解し具体的事例に関する支援方法を発表する）:30% 課題解決（社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深め課題を考察し解決法や対処法を提案する）:20% | | |
| | | ② | ✓ | | | |
| | | ③ | ✓ | | | |
| | | ④ | ✓ | | | |
| | | ⑤ | ✓ | | | |
| 学修行動 | 社会人基礎力（学修態度） | 10 | ① | ✓ | （主体性）指示がなくても課題に取り組むことができる（実行力）自立支援計画、社会的養護の支援方法及びグループワークについて理解することができる。 （課題発見力）自分の役割を明確にして課題に取り組むことができる。 （創造力）自分達のテーマに合わせた効果的な計画作成をおこなうことができる（発信力）発表することにより自分の役割を果たすことができる。 （傾聴力）発表を聞き評価することにより、自分の教育やグループワークを振り返る事が出来る。 （規律性）グループのルールや約束を守りメンバーのサポートができる | |
| | | | ② | ✓ | | |
| | | | ③ | ✓ | | |
| | | | ④ | ✓ | | |
| | | | ⑤ | ✓ | | |
| 総合評価割合 | | 100 | | | | |

【到達目標の基準】

| 到達レベルS(秀)及びA(優)の基準 | 到達レベルB(良)及びC(可)の基準 |
|--|--|
| 達成目標①から⑤について実践できるとともに筆記試験においての知識、グループワークと発表、授業での積極的発言の全て満足できる評価が得られる。つまり、社会的養護の内容を理解したうえで個人個人に応じた自立支援計画を立案し具体的な自立支援について理解できていることが基準となる（総合評価80点以上90点未満）。A以上の能力を有しているもの（総合評価90点以上）をSとする。 | 達成目標①から⑤について実践できるとともに筆記試験においての知識、グループワークと発表、授業での積極的発言のある程度満足できる評価が得られる。つまり、社会的養護の内容を理解したうえで程度自立支援計画を立案し自立支援について理解していることが基準となる。 |

| 週 | 学修内容 | 授業の実施方法 | 到達レベルC(可)の基準 | 予習・復習 | 時間(分) | 能力名 |
|---|----------------------------|--|---|---|-------|---|
| 1 | 授業ガイダンス、社会的養護とは | <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・ペアワークによる意見交換 ・Googleclassroomにて確認テスト・リアクションペーパー提出 | 「社会的養護Ⅰ」で学んだことを復習し、「社会的養護Ⅱ」で学ぶべき内容を理解する。 | 予習:シラバスを読んでおく 復習:社会的養護Ⅰのノート、プリントを振り返る | 90 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 2 | 社会的養護の理念と体系 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・ペアワークによる意見交換 ・Googleclassroomにて確認テスト・リアクションペーパー提出 | 社家庭的養護の理念を理解し、施設養護・家庭養護について説明できる。 | 予習:テキストp21～28を読んでおく 復習:各施設の概要についてまとめる | 90 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 3 | 施設養護の展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・ペアワークによる意見交換 ・Googleclassroomにて確認テスト・リアクションペーパー提出 | アドミッションケアからアフターケアまでのつながりの重要性を理解し、各段階における支援のポイントを説明することができる。 | 予習:テキストp37～44 復習:実習先施設の支援内容についてHP等から調べる | 90 | 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 4 | 虐待による子どもへの影響と専門的支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・DVD視聴 ・ペアワークによる意見交換 ・Googleclassroomにて確認テスト・リアクションペーパー提出 | 虐待による子どもへの影響について理解し、専門的支援の具体的な内容を説明することができる。 | 予習:虐待による子どもへの影響について調べておく 復習:DVD視聴した内容についてまとめる | 90 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 5 | 自立支援計画(ケースワークのプロセスとアセスメント) | <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・ペアワークによる意見交換 ・Googleclassroomにて確認テスト・リアクションペーパー提出 | 自立支援計画を策定する意義を理解し、具体的な事例を想定して必要な手順が説明できる。 | 予習:テキストp53～57を読んでおく 復習:ケースワークのプロセスを整理しまとめる | 90 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 6 | 各施設における専門的支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・グループディスカッション ・Googleclassroomにて確認テスト・リアクションペーパー提出 | 各施設について、支援の目的と内容、専門職、機関連携、家庭への支援、についてグループでまとめることができる。 | 予習:施設養護における専門的支援について調べる 復習:施設養護における専門的支援について発表できるように準備する | 90 | 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力 |
| 7 | 施設養護における支援事例の検討 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・グループディスカッションおよび発表 ・Googleclassroomにて確認テスト・リアクションペーパー提出 | 具体的な事例についての支援方法を検討することができる。 | 予習:支援事例を読んでおく 復習:支援事例に対して検討した内容を発表できるように準備する | 90 | 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力 |
| 8 | 児童養護施設・乳児院における支援について(発表) | <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・グループディスカッションおよび発表 ・Googleclassroomにて確認テスト・リアクションペーパー提出 | 児童養護施設・乳児院における専門的支援についてまとめ、具体的な事例についての支援方法を発表することができる。発表を聞き、学んだことや疑問に思ったことを伝えることができる。 | 予習:発表に向けた準備をする 復習:発表内容を振り返り、学んだことや疑問点を整理する | 90 | 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 |

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

| 週 | 学修内容 | 授業の実施方法 | 到達レベルC(可)の基準 | 予習・復習 | 時間(分) | 能力名 |
|----|---------------------------------|--|---|--|-------|--|
| 9 | 母子生活支援施設・児童自立支援施設における支援について(発表) | <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・グループディスカッションおよび発表 ・Googleclassroomにて確認テスト・リアクションペーパー提出 | 母子生活支援施設・児童自立支援施設における専門的支援についてまとめ、具体的な事例について対応方法を発表することができる。発表を聞き、学んだことや疑問に思ったことを伝えることができる。 | 予習:発表に向けた準備をする 復習:発表内容を振り返り、学んだことや疑問点を整理する | 90 | 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 |
| 10 | 児童心理治療施設・障害児入所施設における支援について(発表) | <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・グループディスカッションおよび発表 ・Googleclassroomにて確認テスト・リアクションペーパー提出 | 児童心理治療施設・障害児入所施設における専門的支援についてまとめ、具体的な事例について対応方法を発表することができる。発表を聞き、学んだことや疑問に思ったことを伝えることができる。 | 予習:発表に向けた準備をする 復習:発表内容を振り返り、学んだことや疑問点を整理する | 90 | 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 |
| 11 | 児童発達支援センターにおける支援について(発表) | <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・グループディスカッションおよび発表 ・Googleclassroomにて確認テスト・リアクションペーパー提出 | 児童発達支援センターにおける専門的支援についてまとめ、具体的な事例について対応方法を発表することができる。発表を聞き、学んだことや疑問に思ったことを伝えることができる。 | 予習:発表に向けた準備をする 復習:発表内容を振り返り、学んだことや疑問点を整理する | 90 | 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 |
| 12 | 家庭養護における支援(里親、ファミリーホーム) | <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・DVD視聴 ・ペアワークによる意見交換 ・Googleclassroomにて確認テスト・リアクションペーパー提出 | 里親制度を利用する家庭についてその背景を学び、里親制度、ファミリーホームの特徴について理解する。 | 予習:社会的養護Iで学んだ家庭養護について復習しておく 復習:里親制度、ファミリーホームの特徴についてまとめる | 90 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |
| 13 | 職員の役割と倫理、自己覚知 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・グループワークによる意見交換 ・Googleclassroomにて確認テスト・リアクションペーパー提出 | 社会的養護における保育士の役割と職員倫理について理解する | 予習:テキストchapter4を読んでおく 復習:倫理綱領について調べる | 90 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 規律性 |
| 14 | 自立支援計画づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・オンデマンド ・事例について、子ども本人への支援計画および家庭への支援計画を作成する | 事例について、決められた様式に沿って、子どもおよび家庭のニーズを読み取りながら、自立支援計画を作成できる。 | 予習:第5回の内容を復習する 復習:支援計画を作成するポイントをまとめる | 90 | 主体性 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 状況把握力 規律性 |
| 15 | 社会的養護の課題と展望 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・グループワークによる意見交換 ・Googleclassroomにて確認テスト・リアクションペーパー提出 | これまでの講義内容をすべて振り返り、社会的養護の課題と展望を理解することができる。 | 予習:これまでの講義資料およびノートを振り返る 復習:社会的養護の課題について整理する | 90 | 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性 |

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力